

快であり、その緊張を解消するために何かしたいと思う。そこに質問、推測、探究が起る。そして何かを発見するときに、われわれはそれを人に告げたいと思う。これは創造的な学習であつてごく自然な学習の形である。

創造性を身につけさせるためには、創造的な活動が生じたときに、それに報いてやる必要である。そこで教師は、突拍子もないようにみえる質問を尊重する必要がある。

また、教師が考えてもいなかった子どもの考えを尊重する必要がある。創造的な子どもは、教師が気がつかないことに気がつくものである。教師は子どもの考えが価値があることを示してやる必要がある。また自発的な学習をすすめる機会を多く与える必要がある。

あまりにこまかいところまで立ち入って監督し、予定したカリキュラムに固執してはならないのである。また、何よりも、子どものしたことをすぐにおとなの観点から評価するようなことをしてはならない。それは子どもが自ら学び発見することを妨げることにならう。

○ われわれは、子どもが間違えることの自由を与えてやらなければならない。間違えるということは、子どもが自分の努力を自分で評価する過程である。間違えることによつ

て、子どもは正しいやり方を自分で見出し、学習していく。

ところが多くの学校において、間違えることは、恥をかくことであり、悪い成績をとることであり、悪い生徒である。このような雰囲気の中では、子どもは質問をすることを避け、自分では分かっていることを暗記し、理解していないことをかくそうとする。

宇宙科学者は、ロケットの打ち上げに成功するまでにどれだけ多くの間違つた試みをしたことであろう。一回だけで成功するというようなことはこの人生にはないのである。それなのに、学校での学習が人生から切り離されてよいであらうか。学校で、間違いをしながら、自ら発見することを学び、その苦痛と喜びを経験することこそ、真の学習をすすめる道である。

○ 現代の子どもは、表面的に知識や教材の上を通りすぎることになれている。彼らは「正しい」答えを求めるが、自分の心の奥まで納得しようとしなない。だから、探し、求め、発見するときの興奮を知らない。子どもたちは、学校で静かに時間を消費する「道徳」を学んでいるが、創造の喜びを忘れてしまっているのである。

幼児の教育 第六十六巻 第五号

五月号 © 定価八〇円

昭和四十二年四月二十五日印刷

昭和四十二年五月一日発行

東京都文京区大塚二ノ一ノ一

お茶の水女子大学附属幼稚園内

編集兼 津 守 真
発行者

東京都文京区大塚二ノ一ノ一

お茶の水女子大学附属幼稚園内

発行所 日本幼稚園協会

東京都板橋区志村一ノ一

印刷所 凸版印刷株式会社

東京都千代田区神田小川町三ノ一

発売所 株式会社 フレーベル館

振替口座東京一九六四〇番

◎ 本誌御購読についての御注文は発売所
所 フレーベル館にお願いいたします